各地本だより

埼玉地本

ようやく梅雨明けとなった途端に、ここ埼玉でも連日の猛暑となっています。熱中症などの報道も目立っておりますが、皆さんも体調管理に留意され日々就労にあたってください。

さて、埼玉地本に於いては、『第43回定期大会』を去る6月28日さいたま市にある『ときわ会館』で開催いたしました。戦争のできる国にする安保関連法案や、労働者を踏み台にし経済の立て直しを図ろうとする労働者保護ルールの改悪と、安倍政権の暴走が始まっている状況下での大会ではありましたが、前大会の運動方針に加え、平和運動や来年の参院選への取り組み、事故防止対策などの新しい運動方針も全会一致で承認され盛会裡に終了した事をご報告させていただきます。執行部を中心に組合員とともに埼玉地本発展のため今後も頑張っていく所存でありますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に労供概況ですが、例年であれば盆前の駆け込み需要に追われる時期なのですが、埼玉の生コンにおいては依然として低調に推移しております。一時期よりは上向きとなってはいるものの需要の波が激しく、供給が追いつかない日があるかと思えば、次の日は全くないといった状況です。外環道などの工事が本格的に始まれば需要が伸びる事も予想される為、新規組合員の確保にも取り組んでいきたいと考えております。

執行委員長　折井洋之

滋賀地本

台風11号の影響下で行われた「祇園祭」の山鉾巡航も無事に終わり、「祇園祭」が終われば梅雨明けとの言葉通り、西日本各地で梅雨明け宣言が出されました。

しかし、台風11号がもたらした記録的豪雨の影響がまだ続いており河川の氾濫や山崩れ災害には十分に注意したいところです。台風12号も接近しそうな雰囲気で、天気模様に目が離せない状況が続きそうです。

また、安倍政権による「安保関連法案」が、国民の理解を得ないまま強行採決で衆議院を通過するなど、自公政権の独裁政治がまかり通る事態となっている感じがします。しかし、この事が引き金となって過去の「安保闘争」とは異なる若者の「新たな安保闘争」と政治に関心が集まれば、自公政権の足元を揺るがすかもしれないと密かに期待して止まないところです。

さて、滋賀地本の労供現況は5・6・7月と生コン関係は厳しい状況が続いています。異業種に関しては「馬運車」は順調に少しづつ拡大傾向にありますが、その他はこのところ少し不安材料もあり停滞気味です。組合員数も加入者と脱退者がほぼ同数の状況にあり、一向に組合員数が増加せず8月の供給不足が危ぶまれる状況となっています。

なお、今夏は「暑中はがき」を失礼させて頂きました関係で、この紙面をお借りし「暑中お見舞い申し上げます」との挨拶を皆さんに送ります。更に、熱中症など健康管理に注意して共にがんばりましょう！

書記長　田中　浩

東京地本

東京は、何時ごろ梅雨明けになったのか分からないほど忙しい日々が続いている。最近、電車が空いているのと朝の駅に向かう途中で子供たちの集団登校が見えなくなって初めて夏休みに気づく有様。体力と気力は落ちてはいないと自負するが、寄る年並みに記憶力が覚束なくなっている。

その分、優しい書記さん達や若い書記次長、人材育成センターの職員に助けられながら、感謝、感謝の仕事に追われている。

他の地本便りにも強調されているように、安倍政権の暴走に対する連合、平和運動センターが呼びかける諸行動が連日といってもいいほど続いている。その中で嬉しかったのは、7月の新規加入組合員の研修で国会包囲行動への参加を呼びかけたところ、2名が参加してくれたことだ。しかも、行動費を渡す時に、今回いい経験をさせていただいて有難うと感想を言ってくれた。労働組合である以上、仕事だけでなく、平和と安全、民主主義に対する責任があるという私の講義を受け止めてくれたのだ。

地本の活動としては、この22日に執行委員会と評議員会があった。草苅委員長が欠席の中、佐々木副委員長の議長、司会で進行した。評議員会で焦点だった「9規程・細則」の改正案の殆どが承認された中で、「評議員定数の削減」提案が見事否決された。議論してダメだったら引き下げるという民主的組織運営の鏡のような事態で、それこそ来年の参議院選挙で安倍政権を追い落として安倍首相に教えてやらなければならない。

一方、地本の足元では、今秋大会での役員選挙がらみの動きが活発になっているという。酷暑の中、安全運転・作業を祈る日々が続く。

書記長　太田武二

関西地本

安倍政権が形振り構わず暴走している。労働者保護とは名ばかりで使用者側を利するばかりの派遣法の改悪等の労働法制で止まらない。更には、憲法解釈を勝手に変更し、時の為政者の恣意的な判断基準で集団的自衛権を行使できる「戦争法案」の採決では、与野党との合意形成が出来ないまま、個別案件の答弁に終始し、徒に時間を重ねただけで審議を打ち切り、野党の反対を押し切って衆議院を通過させた。

その暴挙に対して、憲法違反と述べる法学者や反戦を掲げる団体、若者を中心とする民衆は国会を取り巻き、「戦争反対」「安倍政権にノー」を突きつけ、その声は、燎原の火の如く地方都市へと拡がっている。その過程で、どのマスメディアの世論調査でも内閣支持率が一気に急落し不支持が支持を上回っている。にも拘らず、参議院の審議では、「安保法制」の内容に大多数の国民が理解できていないと安倍首相は開き直って答弁しており、国民を愚弄するにも程がある。

さて関西の概況ですが、生コン需要の低下は比較的に高位であった大阪市内部にも及び、新たな工事物件が少なく、需要は低位に推移している。各支部担当者は雇保受給資格確保に四苦八苦してきたが、6月に入り需要はやや回復基調に戻ってきた。しかし、降雨や台風の天候不良で中止する日が多い一方で、悪天候の翌日は協約先事業所からの需要過多による未供給という事態が多発した。何とか支部間の応援就労で未供給を回避しているが、喫緊の課題として人員不足の解消に取り組んでいる。

執行委員長　白土武裕

隠居の海外旅行

～麗しのバルト三国～（その三）

河合　明博（元新産別委員長）

△和食ブーム▽

この頃、海外で和食がブームになっているというニュースを良く聞く。ニューヨーク辺りの一時的ブームかと思っていたが、そうでも無いらしい。今回の旅でも、幾つかの街で、本格的な寿司レストランを見掛けた。ヤクザという店名はともかく、際物ではないと見受けた。数年前、スペインの旅で、握り飯に魚をのせただけで、お勧めできません、といわれたのとは様変わりしているようで、食した人の感想も、結構いけるとのこと。寿司折もショウウインドの中に違和感無く並び、スーパーの棚には寿司用の海苔やワサビが他の食材と一緒に置かれていた。

現地の料理は、日本人の口に合うものが多い。レストラン、ホテルでは前菜、メインディッシュ、デザートの3コースで用意されたが、野菜の多い前菜は嬉しい。ツェペリナイ（肉団子を餅状にしたジャガ芋でくるみ、揚げたもの）、スルトゥ（豚の煮凝り）、コルドゥーナイ（水餃子・ペリメニ）などは名物料理なのだろう。鰊も酢漬け、焼き物などで出され馴染みやすい。お酒についても触れておこう。大きなスーパーの酒コーナーにフランス、イタリー、チリなど各国の多種類のワインを始め、ウイスキー、ブランデーなど多種多様な酒が並んでいるのに圧倒され、日本酒を探す意欲を殺がれたが、どこかに有ったに違いない。寒い土地柄かウォッカも多種多様なものが並べられていた。ロシアからの輸入ものも多い。エストニア・ウォッカのアルコール度数は40度。少々甘い感じのものだった。

ロシアのウォッカは55度ぐらいだったと思うが、アル中を防ぐため世界的に度数を下げる傾向に有るらしい。この地域では、水道水を飲用するのに全く支障なかった。硬水なのでミネラルウォーターを飲んだ方が良いと言われたが、経験上、自己責任で水道水で通した。

△国境とは？　EUとは？▽

今回、幾度となくボーダー（国境）を越えた。だが、そこには検問所が有る訳で無く、私の旅券にはヘルシンキ・ヴァンタア空港での入国と出国の二つのスタンプが押されただけ。旅行者には大変便利なことだが、その間、国家体制も違えば、法律も違う。人種も違えば、言語も違う。隣り合って物価にかなり差のあるところさえ有る。そういうところを自由に往来出来る。EUって素晴らしいと思う反面、国とは何だろうという根本的な問題にもぶち当たる。私が考えてもしょうがないことでは有るが・・・・マァイッカ。

バルト三国の旅は添乗員の話では、今人気上昇中という。今回の参加者37名。比較的安い（10日間で約20万円）こともあったが、発表後すぐ催行決定となった。さすがに海外旅行が初めてという人はいなかったが・・・・・。人気が上がると都心に近いホテルの確保が難しく旅費も上がるだろうという。なかなか世の中旨くいかないものだ。添乗員によって旅の楽しさを左右されることも少ないが、今回は全く文句無し。さて次の旅は、どこへ行こうか。

（二〇一四年十二月一日～十二月十日阪急交通社）

（完）

連合

STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現キャンペーン第３弾

連合は、第19回中央執行委員会で確認したキャンペーン全国統一行動を第1次、第2次と取り組みを強化してきた。第2次の山場には、国会前で怒りの座り込み行動、夕刻から日比谷野外音楽堂で集会およびデモを行なった。

国会では、安倍政権による野党欠席の中、一方的な議会運営が強行されただけでなく、6月24日だった通常国会の会期を前例のない大幅な延長で9月27日までとした。それもこれも安倍首相が4月末、米議会でこの夏までに集団的自衛権を含む戦争法案を成立させるとの約束を果たすために他ならない。まさに、戦後最悪の売国首相だといわざるを得ない。

そして、労働者派遣法改正法案が6月19日、衆議院本会議において可決された。連合は、参議院における労働者派遣法改正法案の徹底審議を強く求めるとともに、過労死を助長しかねない労働基準法の改悪についても阻止すべく、民主党と連携して今後の国会内外での闘いに全力を尽くすということで、第3次、4次行動を全国展開することになった。具体的には、連日の街頭行動、国会傍聴行動に連動させて院内集会、国会前座り込み、路上集会の開催などが会期末まで取り組むことになっている。